

H30 阿賀野市立安田中学校 グランドデザイン

基本理念 「自立・信頼・共生が拓く、私たちの未来・ふるさとの未来」



主体的に学び、協働的に問題の解決に取り組む姿 人と人のかかわりに気づき、支え合う姿		自立	信頼	共生
基本方針	目標	小・中学校教育の重点	努力事項	
● 生きる力を育む 学校教育の推進	○ 学びの中連携により、豊かな学力の育成に取り組む。	① 保護者や地域の関心と協力を生かし、地域と共に歩む学校づくり	○ 人権教育、同和教育の推進 ・「生きる」の活用・授業展開・研修の充実 ・グローバル人材育成 ・教育活動の充実 ・教員研修のための研修活動 ・外部研修における小中連携 ・部活動向上のための研修活動	○ 特別支援教育の推進 ・「阿賀野市子ども発達支援計画」の推進 ① 1. ボディ・小・中連携の推進 ・学校間の連携体制の確立と取組の充実 ② 特別支援教育 ・土曜スクール・新居水産物学習・体験活動 ・特別教育 ・地域社会との連携・情報活用能力の育成 ③ 食育の充実 ・食育の推進・生活習慣としての食育の推進 ・学校給食計画に基づく栄養指導の実施 ・食育の推進 ・食育の推進 ・食育の推進
● 絆を深める 地域協働の推進	○ 豊かな人間性や健康でたくましい心身を育む教育を推進します。	② 児童生徒の心に寄り添い、いじめを許さない、いじめを許さない意識の醸成を図る生徒指導を行う。(いじめ・不登校を生まない学校づくり)	○ 特別支援教育の推進 ・「阿賀野市子ども発達支援計画」の推進 ① 1. ボディ・小・中連携の推進 ・学校間の連携体制の確立と取組の充実 ② 特別支援教育 ・土曜スクール・新居水産物学習・体験活動 ・特別教育 ・地域社会との連携・情報活用能力の育成 ③ 食育の充実 ・食育の推進・生活習慣としての食育の推進 ・学校給食計画に基づく栄養指導の実施 ・食育の推進 ・食育の推進 ・食育の推進	
● 安全と安心 環境整備の推進	○ 安全に行動する態度を育てるため、災害教育の充実を図ります。	③ 地域社会と連携を図り、教育活動全体を通してキャリア教育の積極的な推進を図る。ふるさとへの愛着や誇りを育てようとする。	○ 特別支援教育の推進 ・「阿賀野市子ども発達支援計画」の推進 ① 1. ボディ・小・中連携の推進 ・学校間の連携体制の確立と取組の充実 ② 特別支援教育 ・土曜スクール・新居水産物学習・体験活動 ・特別教育 ・地域社会との連携・情報活用能力の育成 ③ 食育の充実 ・食育の推進・生活習慣としての食育の推進 ・学校給食計画に基づく栄養指導の実施 ・食育の推進 ・食育の推進 ・食育の推進	
	目標	幼稚園教育の重点	努力事項	
	○ 学びの豊かな地を築き、幼児教育の充実を図ります。	① 幼児一人一人の理解に努め、環境構成を工夫して、主体的活動としての遊びを充実させる。	○ 人や身近な自然との関わり、豊かな心を育むに努める。 ○ 言葉によるコミュニケーションを大切にし、社会性の基礎を培う。 ○ 成長を促すための関わりや学びで「親と子の育ちの場」の充実を図る。	
		② 発達や学びの連続性を意識して、小学校との円滑な接続を図る取組を推進する。		

教育目標【学習】

すすんで学習に取り組む生徒

知育
<成果目標>
 ① Web診断テストで県平均正答率95%以上の正答率になる回が年間で70%以上になる。また、県平均以上になる回が20%以上になる。
 ② 家庭学習時間を継続的にきちんと取り組む生徒の割合が、年間80%以上になる。

<教育活動>

- Web配信問題の過去問題を朝学習時に実施し、その解説を各教科の授業で行う。
- 学年部が主体となりサポート問題、前々年度問題を配付し、家庭学習課題として取り組む。

<運営活動>

- 各職員がWeb配信問題の結果を分析し、それをもとに自分の教科の授業改善のための研修に取り組む。
 - 月末と月初めに、全校一斉にサポート問題、前年度、前々年度問題の準備と配付、指導を行い終了後は点検を行う。
- 年3回の小中連携家庭学習強調週間を設定し、家庭学習時間調査をもとにした生徒と保護者へ、中学校区便り、学校便り等で啓発の取組を行う。

学校・生徒の実態
 ○学習への意識が高まりつつあるが、基礎的な内容にねばり強く取り組む必要がある。
 ○生徒の中に学校をよりよくしようとする気運が高まりつつあるが、人間関係の希薄さやコミュニケーション能力の不足が感じられる。

保護者等の願い
 ○他者とのかかわりの中で、自らを高められる生徒に育てほしい。

目指す学校の姿
 ○生徒一人一人が、自他のよさや成長を実感できる学校
 ○生徒たちが自校に誇りをもてる学校

目指す生徒の姿
 ○互いの存在に関心を持ち、共に高まろうとする生徒
 ○自分自身を厳しく見つめ、見通しと向上心をもって行動できる生徒
 ○社会の一員として自覚を持ち、他との信頼関係を築けるよう行動する生徒
 ○集団生活におけるルールやマナーを大切に考え、行動できる生徒

特別活動部
 ○全校統一の学級活動○互いに高め合う集団づくり(自己・相互評価の機会の充実)
 ○複数担任制を活用したきめ細かな指導(中1ギャップ解消)
 ○OSGE、SSTの実践○生徒会による生活向上の取組

保護者や地域等と連携し、次世代を担う子どもたちの姿を提案できる学校

「主体的・対話的で深い学び」の実現
授業改善
 児童生徒が将来の夢や希望をもち、主体的に学習に取り組めるよう、すべての教科等で、見通し・振り返りの学習活動や目的を明確にした学び合いを取り入れるなど、全校体制で取り組む。

いじめをしない、許さない、命を大切に
道徳教育
 自己や他者、社会にとってのよい判断ができるよう、おらに即した多様な指導方法を取り入れるなど、「考え・議論する道徳」を推進する。

特別活動
 豊潤な心、命を大切に育むことのできるよう、学級活動や児童会・生徒会活動での話し合いを大切にしながら、「考え・議論する道徳」を推進する。

人権教育、同和教育
 自他を大切にして行動できるよう、「生きる」を活用する心、取組教育や中核とした人権教育を推進する。

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援

地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり

高め合い、行動力のある職員集団

○特別支援教育の充実(教育的ニーズの把握と授業の充実)
 ○基本的生活習慣の実態把握と食に関する啓発活動

学力向上部
 ○学力分析と課題把握(NRT、Web配信テスト等の各種調査)
 ○言語活動の充実(コミュニケーション活動)
 ○少人数指導○朝学習の実施
 ○家庭学習定着に向けた終学活の活用(YSTADY)
 ○学習会(長期休業中)○定期テストの学習支援
 ○継続的な家庭学習調査と啓発活動

体育
<成果目標>
 ①自分の健康と朝食の取り方を関連付けて考えられる生徒の割合いを50%以上にする。
 ②11時までに就寝する生徒の割合を70%以上にする。
 ③個々に昨年度の体力テストの結果を受け、今年度各種目の数値の向上を目指す。また、体力テストを学期に一度取り組み、数値の向上を目指す。

<教育活動>
 ①朝食振り返り週間を年2回実施し、結果を活用した指導を行う。
 ②メディア時間を意識する日(学期1回)、生活振り返り週間を年2回実施し、結果を活用した指導を行う。
 ③保健体育の授業で、週1回以上総合的な体力向上のためのトレーニングを実施する。

<運営活動>
 ①朝食の取り方を実行するには家庭の協力も必要なので、調査結果を学年たよりに記載し啓発する。
 ②生活習慣の改善は、家庭との連携が必要不可欠であることから、担当から出された結果を学年で分析し、学年たよりや学年PTA等で啓発する。
 ③体力テストの結果を受け、体力向上のための研修を部活動の合同トレーニング形式で実施する。

教育目標【生活】

けじめをつけて生活出来る生徒

【生徒に育みたい力】(社会性と学力)
 ・自己肯定感・自己有用感
 ・自ら考え、自ら学ぶ力(学力の向上)
 ・豊かな人権感覚
 ・人間関係づくりの能力・スキル

心の教育部
 ○人権や人間関係づくりの学習の充実(強調月間6月・11月)
 ○教育相談の充実(5月・9月)
 ○「社会貢献の意欲の向上」や「自己の生き方について深く考える機会」の充実
 ○人権講演会

徳育
<成果目標>
 以下の質問項目について、肯定的評価(4件法でA,B)の生徒の割合がそれぞれ下記の数値を超える。

- 自分の仕事に責任をもって取り組むことができた。(A...4割 AとB...8割)
- 自分の仕事がほかの人の役に立っていると感じる。(A...4割 AとB...8割)
- 自分とは異なる考えや行動をする人がいても、それを個性と受け止め、差別や偏見をもちずに接している。(A...4割 AとB...8割)
- 進んで学級・少人数の話し合いに参加している。(A...6割 AとB...8割)

<教育活動>
 ①行事後や学期末に全校で統一の話し合い活動をし、学級目標に向けた自己の活動を振り返る。(成果項目①②④と連動)
 ②各学年で「生きるIV」を活用し、人権尊重に対する意識を高める。(成果項目①②③と連動)
 ③班活動・係活動を積極的に取り組ませる。(成果項目④と連動)

<運営活動>
 ①話し合い活動を効果的に実施するために、FTやSGE、SSTの研修や、係活動に関する研修を行う。
 ②人権教育、同和教育ならびに「特別の教科 道徳」に関する職員研修を行う。
 ③隔週の活動優先日の活用や生徒への指導助言を適切に行う。

教育目標【心情】

思いやりのある心豊かな生徒